

第4期 報 告 書

自 平成27年 4 月 1 日

至 平成28年 3 月 3 1 日

I Rいしかわ鉄道株式会社

事業報告

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

I 会社の現況に関する事項

1. 当事業年度における事業の経過及びその成果

当期における我が国経済は、企業収益の拡大が賃金上昇や雇用拡大につながり、消費の拡大や投資の増加を通じて更なる企業収益の拡大に結びつくという経済の好循環が回り始め、景気は回復基調にあるものの、企業と家計の所得増に比べると、設備投資や個人消費等、支出への波及には遅れがみられます。こうした中、本県経済は、北陸新幹線の開業効果等により主要観光地の来訪客数や宿泊者数が好調に推移し、また製造業の生産が高水準で推移するなど、景気は回復を続けております。

当社は、このような経営環境のもと、通年営業初年度となる平成27年度については、「輸送の安全こそが最も重要なサービス」であるとの認識のもと、予兆管理活動等の実行を通じ社員の安全意識の高揚を図るとともに、初めての冬期輸送を行うにあたり、雪害対策本部を設け早期の情報収集と迅速な対応を心がけ、輸送の安全と安定運行の確保に努めたところであります。

利活用促進に向けた取組みとしては、金沢百万石まつりなど地域のイベントに合わせて臨時列車を運行するとともに、あいの風とやま鉄道株式会社と共同で新たに「IR・あいの風1日フリーきっぷ」の発売を行うなど企画きっぷの充実に努めました。

また、地域の皆様にマイレール意識を持っていただけるよう、石川県や金沢市、津幡町や地域の皆様と連携し、地産地消市場等のイベントを開催するとともに、地域の夏祭りへ参加し、積極的なPR活動を行ったほか、いしてつ愛あーるクラブの活動として、金沢駅舎の見学会やモニターツアーの開催、秋の感謝デーでは車両の運転席乗車体験・車掌放送体験を行うなど会員との交流を深めました。

開業1周年を記念して、平成28年3月12日には臨時列車の運行と出発式を執り行うとともに、12日及び13日に沿線各駅において当社主催のイベントを開催したほか、地域の皆様によるイベントも開催されたところであり、多くの皆様にご参加いただきました。

平成28年3月26日には、北海道新幹線開業を始めとする鉄道ダイヤの改編に伴い、当社において初のダイヤ改正を行いました。平日の夕方の通勤時間帯の増発、金沢

駅での特急との接続等を考慮いたしました。

その他、運営に必要な社員確保のため、社員6名を新たに採用したほか、津幡駅におけるパーク&ライド駐車場の整備、旅行商品の企画販売など関連事業の展開に取り組んだところであります。

今期の営業収益としては、旅客運輸収入が1,322,342千円、鉄道線路使用料収入が507,951千円、運輸雑収が658,776千円で、計2,489,069千円となりました。

一方、営業費用については、人件費をはじめ備品・消耗品の購入、委託駅に係る業務委託の費用等により計1,681,905千円となり、807,163千円の営業利益を計上することとなりました。

また、特別利益として、石川県からの補助金収入13,085千円があり、特別損失としては、石川県に対する寄付金340,000千円など353,085千円があった結果、税引前当期純利益は400,488千円となり、法人税等を差し引いた当期純利益として257,040千円を計上するに至っております。

なお、旅客輸送状況については、次のとおりとなっております。

区分	平成26年度 (3/14~31)	平成27年度
定期外利用者	220 千人	2,941 千人
定期利用者	226 千人	6,535 千人
通勤	124 千人	2,746 千人
通学	102 千人	3,789 千人
合計	446 千人	9,476 千人

2. 対処すべき課題

輸送の安全こそが最も重要なサービスであるとの認識を徹底し、「輸送の安全性」を最優先に、「利用者の利便性の向上」、そして「経営の安定」に取り組み、将来にわたって住民生活に欠くことのできない重要な交通手段として存続させていく必要があります。

そのためには、経営の効率化と併せ、利用者の増を図っていく必要があります。地域住民の方々にIRいしかわ鉄道線は自らの鉄道であるというマイレール意識をもっていただくことが重要であり、行政や地域住民とも連携し、利活用促進に取り組んでまいります。

地域と連携した駅を活用したイベントやイベントに合わせた臨時列車の運行、企画商品の造成、接客サービスの向上等に注力するとともに、お客様の声を広く集め、営業施策に活用してまいります。

また、平成29年に設置が予定されている新指令について着実に整備を進めるとともに、平成29年4月末にサービス開始を予定している交通系ICカードの導入についての検討を進めているところであります。

(参考) 1日あたりの利用者数

	平成26年度(3/14~31)	平成27年度
定期外利用者	12,250人/日	8,035人/日
定期利用者	12,538人/日	18,153人/日
通勤	6,904人/日	7,628人/日
通学	5,634人/日	10,525人/日
合計	24,788人/日	26,188人/日

(注) 定期外利用者には特急利用者を含む。

貸借対照表

平成 28 年 3 月 31 日 現在

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	2,685,349	流動負債	821,263
現金及び預金	2,193,743	リース債務	1,202
未収運賃	149,756	未払金	362,626
未収金	293,390	未払法人税等	152,708
貯蔵品	39,461	未払消費税等	100,677
前払費用	8,551	預り連絡運賃	96,997
その他の流動資産	445	前受運賃	85,935
		前受金	14,882
		賞与引当金	4,744
		その他の流動負債	1,487
固定資産	48,230	固定負債	76,687
鉄道事業固定資産	45,742	リース債務	2,904
投資その他の資産	2,488	退職給付引当金	1,208
差入保証金	2,200	特別修繕引当金	72,574
長期前払費用	288		
		負債合計	897,950
		(純資産の部)	
繰延資産	257,113	株主資本	2,092,743
創立費	933	資本金	2,006,000
開業費	254,957	利益剰余金	86,743
株式交付費	1,222	繰越利益剰余金	86,743
		純資産合計	2,092,743
資産合計	2,990,694	負債・純資産合計	2,990,694

損 益 計 算 書

自 平成 27 年 4 月 1 日
至 平成 28 年 3 月 31 日

(単位：千円)

科 目	金 額	額
鉄 道 事 業		
営業収益		2,489,069
営業費		1,681,905
営業利益		807,163
営業外収益		
受取利息	713	
雑収入	2,359	3,073
営業外費用		
創立費償却	700	
開業費償却	65,095	
株式交付費償却	3,667	
雑損失	285	69,748
経常利益		740,488
特別利益		
補助金	13,085	13,085
特別損失		
寄付金	340,000	
固定資産圧縮損	13,085	353,085
税引前当期純利益		400,488
法人税、住民税及び事業税		143,447
当期純利益		257,040